

戦争法案反対

若者も女性も 戦争体験者も

安倍政権与党の自民、公明両党が国民の圧倒的反対の声を無視して衆院本会議で戦争法案(安保法案)を強行採決した翌日の17日、東京都杉並区のJR阿佐ヶ谷駅近くの商店街「パールセンター街」でシールアンケートで対話しました。(社会部取材班)

今月首業に始めたばかりという宮川玲さん(22)は、「廃案にすべきだ」の「YES」にシール。「安倍首相の説明は、とにかく



戦争法案への賛否を問う街頭アンケートに答える女性(右から2人目)=17日、東京都杉並区

強行採決に街の声

話しました。「買物中」という川田馨恵さん(25)は「戦争学童指導員」は「戦争できる国に変わっていく気がする」と「廃案にすべきだ」にシールを貼りました。若者が戦争法案反対の声をあげていることについて、「若者を不安にすることを安倍首

「怒り収まらない」

相たちが勝手に決めようとしている。安倍さんは「戦争に巻き込まれるなんてことは絶対ない」なんていうけど、信用できない。若者も『このままじゃいけない』と思い始めている』といい、戦争法案反対の意思表示に「参加してみたい」と話していました。

「安倍首相はウンばっかりいって」といいながら「自民党感じ悪いね」の「YES」にシールを貼り、同じく与党の公明党に対しても、『平和の党』とかいっていたのに許せない』と話しました。

戦時中の学徒動員や空襲を経験した大根(おおね)正義さん(82)は、「戦争法案には反対だ。子や孫がいる人たちは徴兵制になったらどんなにか心配だろう。頑張つてよ」と激励していきました。